

平成24年11月20日印刷 平成24年12月1日発行 (毎月1日発行) 第58巻 第14号 通巻第608号 ISSN 0323-2777

工場管理

FACTORY MANAGEMENT

12

2012 Vol.58 No.14

特集 2007年問題、いまだクリアされず 危機感を持って対策を!
成功する技術・技能伝承の進め方

ものづくりの**基本と実践力**を体系的に学ぶ

生産マイスター® 検定

第2回

試験日 2013年1月27日(日)
(ベーシック級、3級、2級、1級)

HRDA 一般社団法人 人材開発協会

検定に関する
お問合せ

<http://www.hrda.or.jp>

ものづくり現場を支える中核人材の育成に 貢献する『生産マスター』プログラム

ー現場と連携した組織ぐるみの活用で グローバル競争を生き残る

一般社団法人 人材開発協会

新興国の追い上げなど激化する国際競争のなかで、日本の製造業が急務とされるのは、世界で活躍できるグローバル人材すなわち「ものづくりの中核人材」の育成だ。これを受けて、一般社団法人 人材開発協会では、「生産マスター」検定を開発、その普及・推進に取り組んでいる。2013年1月27日には、第2回検定が開催される「生産マスター検定」とはどのようなものか。その特徴、導入事例など、人材開発協会の張士洛氏に伺った。

若手から管理者まで共通テーマを体系的に学習/ 能力を客観的に「見える化」

日本の製造業は、円高、新興国の台頭等厳しい国際競争環境下で、グローバル化、技能継承問題への対応など深刻な局面に立たされています。こうしたなかで、企業生き残りの突破口となるのが、中核人材の育成です。特にグローバル展開では、生産拠点を現地に移すだけでなく、現地調達、現地雇用などサプライチェーンを含めた現地との同化、信頼関係の構築などが重要で、海外現地工場の立上げを任せられる人材育成が、喫緊の課題となっています。加えて、国内においても現場の改善力低下の兆しや、体系的な人材育成の不足なども直面する課題です。

「生産マスター検定」は、まさにこうした「ものづくり現場を支える人材の育成支援」をねらいとして、一般社団法人 人材開発協会が開発・創設した検定制度です。

検定の特徴は、生産マネジメントを柱として、新人から工場長まで共通の学習テーマを体系的に整備した点にあります。すなわち、縦軸を工場長など工場経営に携わる管理者（1級）、ライン管理に携わる第一線監督者（2級）、自工程管理に携わるグループリーダー（3級）、それに自己管理を行う若手・新人



一般社団法人 人材開発協会 理事 張 士洛 氏

（ベーシック級）の階層に分け、横軸は各レベルにおける役割（R）、品質（Q）、コスト（C）、納期（D）、安全（S）・環境（E）など生産活動に必要な知識・能力をマトリックスで体系化した点です。

この検定により、現場で展開されている体系的技能教育に加えて、役割意識と幅広い知識を習得でき、客観的な基準で生産部門の「能力を見える化」することが可能となります。

幅広いテーマを網羅した実践的教材/ 検定合格後の継続学習が決め手

受験者は、まず検定試験にむけて、弊会が公式認定した通信教育教材（株式会社日本能率協会マネジメントセンターが開発・運営）で学習していただくことになります。

この公式認定教材の大きな特徴は、検定がめざす期待人材像における各学習テーマの内容を非常にきめ細かく網羅している点です。また、現場での実践事例を中心に、イラストや図表を駆使して具体的な職場のイメージがわくようにできているので、マニュアルとしても十分活用でき、大企業から中小企

業、あらゆる業種で使えるよう、可能な限り汎用化を実現しています。そして通信教育の修了後に、学習成果の測定として検定試験に挑戦していただきます（通信教育の修了が受験条件。ただし、ベーシック級は直接受験可）。

また、本検定は、こうした公式認定教材と相まって、検定合格後も継続的に学習する習慣・風土を企業内に醸成していただくことを目的としています。そのため、「合格して終わり」ではなく、検定をきっかけに「学びの場」、「教えの場」、「人材を体系的に育成する場」ができるよう、トータルな学習プログラムとしてさまざまな支援策を用意しています。

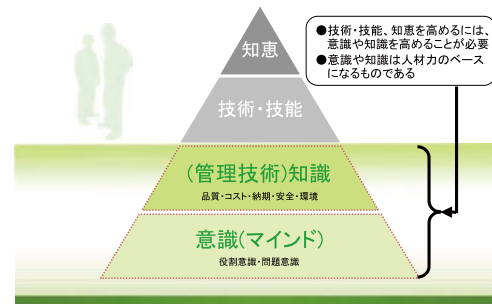
組織ぐるみの学習で グローバル競争を生き残る

実際の導入事例として、金属加工メーカーB社では、リーダー層が率先してベーシック級に挑戦して「基本の再確認」を行い、さらに、若手層がベーシック級に、リーダー層が3級にそれぞれ挑戦したケースがあります。注目されるのは、毎月、実際にレポートを提出する前に職場勉強会を開催し、リーダーが講師となって若手を指導している点です。この役割を各階層

が引き継ぐことによって、リーダーを核とした「自分で考え自分で学ぶ」職場づくりができ、リーダー層の指導力を向上させています。

このように、「検定を通過点として学習を継続する」、それも「組織をあげて学ぶこと」の大切さを特に強調しておきたいと思います。なぜならば、グローバル競争では、学習する企業だけが勝ち残れるからです。私が「生産マスター」をご紹介した講演会には、経営者や工場長なども参加され、「生産活動に

人材育成のキーはしっかりした基礎教育から



新人から工場長まで 共通の学習テーマを体系的に整備

	対象	役割(R)	品質(Q)	コスト(C)	納期(D)	安全(S) 環境(E)	
1級	工場長 管理者	マネジメント・マインド					安全衛生マネジメント・戦略的環境管理
		工場全体における品質保証	投資決定	マネジメント	生産管理戦略		
2級	第一線 監督者	システム・マインド					
		ラインにおける品質管理	標準原価とコストダウン	生産管理活動の全体の理解	職場の安全・環境管理		
3級	リーダー	スタンダード・マインド					
		自工程管理における品質管理	自工程における原価削減・生産性向上	作業計画と統制	職場の日常の安全管理		
ベーシック級	若手 新人	ベーシック (ロス)・マインド					
		自己管理	品質意識	コスト意識	納期意識	安全意識	

における体系的な学習の意味、学び続けさせることの重要性がよく分かった」「昇進・昇格制度などもリンクして活用できそうだ」と、「認識を新たにしたい」というお声をたくさん頂いています。

第2回検定試験が2013年1月27日（日）に実施されます。1級から3級までは通信教育の修了が前提ですが、ベーシックは直接受験が可能です。今後に向けた腕試しとしても、ぜひチャレンジされることを期待します。

お問い合わせ先 一般社団法人 人材開発協会

(公式認定通信教育、
公式認定テキストについて)

TEL:03-6253-8060 URL:<http://www.hrda.or.jp>

株式会社日本能率協会マネジメントセンター
TEL:03-6253-8080 URL:<http://www.jmam.co.jp>